Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

遠山門
號 965
巻 1

親雄言作法伏見序

此君と呼びて作をおのづから学子の
その手ほどきとなる婦一ふこと免
すべきをなるみさほ紙を新色
むしばり紀を作法帖を拡こと業と
なしたふしみの里ふかくこもるあぐ紙
むしし孝負義の名をあらはす新
物ぐさを吉川行の業乃後生を風と

世七代 吉川蔵書

ゆゑ結りこと扨てしろき事ハ知れど
書肆乃誂の拙生會の莚ハ嘶ハ結るハ
てを畫工長秀法至の畫ハ筆ハ横写を
そひく摘よりぞそ有ぞ見ぬ知ぬ
さわとも有べしとく下ハ其ハ結を
迹よとあ生で元よ祭扨ろの知く
文花ハ法ぐる事ハ疎々ぞ兵ハ笑へる
事のを切の業ハ事法ぐ祭ぞ

その至法を厭ぐ川竹の美の屋く
世ハひろぐく代も美へを世の人法
てそあそびをのあぐ又事あ人と
ありいよ

浪花蝙蝠軒魚丸述

文化十とよ月のと
ひのうし秋ちの月表

千寿の方

重吉
おむめ

浅井左門

笹田官太郎
松谷左平次
門人長國画

仲居おきの
秋ほ信十郎

親鸞仏の伏見
惣目録

発端

浅井家没落　鬼晋道戦場

第一

鬼晋剣術指南　村井左近病死

第二

小盗吊鬼晋　鬼晋養雲丸

左門武者修行　信國山中折剣

左門孝民弥　三帝去濤左門試合

官吏対面左門　笹田伯耆

第三

勅解由横死　官吏逐電

民弥仇討発足　秋津洲四國

熊助義侠　民弥雪中絶死

民弥至浅野村　民弥去境屋

第四

民弥叔父浅野仏林寺住會笹田

民弥誌士口論　松倉対面民弥

大内所対討民弥　大内内門

左門来仏林寺　立水左門対面

第五

左門至淀宮村　左門立水蜜侠

大内逗敦　立水敦塚

大内至安治津　紀久横死

立水逗粒　立水成孝引

第六

阿梅逗左門　左門対熊助

楽山大内密侠

小木野坊対徳至淀

位吉侠銭別

左門徳佑

紀壇木町

討仇

紀墺討二命云湯

惣

同孫終

報讐作の伏見殺場　浪花佐久良先著

浅井家没落　鬼晋道戦場

積善の家に餘慶あり積悪の家に余殃ありと古語に
いへるも誠なるかな家に異作の伏見の里にて孤父実父の
敵を討し雅子亡夫の仇をむくひし矢帰そが力と成て
武士をこゝろざし健雄を者矢義によりて復讐する家を
興し家を再び義栄に後世の美談と為まりくるこを元を
忍ぶ者は足利武将義輝公四海を治めかの時とうや
江戸の領主浅井伝和守長政越前の朝倉義景と合体
して小田喜長と合戦数度に及びける志るに小田の

勢ひよくして婦川虎山の戦ひに朝倉方利を失ひ
中途敗走せしかば浅井は小田勢に攻られ
城を囲み遂に城もわれなんとする一族に浅井鬼晋道
喜右衛門安嘉等三命左の村井左近方と城門を守り
打て出る敵の敵を殺ちらし死て敵討を誓ふ
あきて出城中へ入るまもあらで城中より火を放て戦ひける
城中より火を見て不経済戦叶まじと思ひ切城を
伝兵衛守長政父下野守久政結ともに士卒をあつめ余殃の
酒宴を催していさぎよく生害をとげ本丸に火を掛ければ
さしも堅固の一城もて一炬の煙と立のぼり滅亡せしを

鬼晋
一方を
切ぬけ
おちゆく

渕井鬼晋

あり生る城郭より出てうひ〳〵勇士多くも今はあらつぶさて
生ひ〳〵他をむく人と一方を切拔おのゞ為〳〵
中ゝ多くあり〳〵る次第あり家ふ浅井恩晋八一族の多あれば
知ひ多人合よ又ども強くあれば戦場をのゞ生出人
あり〳〵山林より出ひ入おゞ〳〵く世上をうかゞひ多新ふ
出没ゝ生自然あり一族命多ありく〳〵まく安堵ハ
討死〳〵遠方ハ敵陣まで討とゞ生村井ゝ行方も老まゞれば
いかんとも生まゞ多く時の到るを待べしと山陽及西海及を
遍歴〳〵ゝ多〳〵月日を送りゝる

浪花佐藤臭丸著

報讐仇の伏見養之一

恩晋剣術指南

左近病死

実光流八矢のでゝ〳〵でむるふよりとゞあ〳〵ぎまゞ十余年の
月日ゝ〳〵世ハ静僧ふ治〳〵て第某ゝ〳〵時とゝやさまゞ
浅井恩晋八家ふ二ゝ世ゝ〳〵ゝふ三ゝ世ゝ〳〵を廻り上方へ
のぼり伏見の里ふあ〳〵をとゞあ墨流よ住居をの為へ
浪人の世ゝ〳〵ふ軍学剣術の師範を為〳〵ト典流と
号〳〵十八ケ条の秘術をきハ免許士よ指南多ゝ〳〵ゝ
元来浅井家ふて一二をあ〳〵そふ勇士あゝ〳〵宜陣の場数も
踏〳〵る者多まゞ〳〵ゝ捨法の利ゝあ〳〵て伏見の武士ハ

ヤ小及ビゼ淀の家中京都五畿の侍士を外大津宇治
木幡の町人百姓もぐく我もくと門外へ流れ出る古
繁昌一を名世上小云る家小又同家中
左近小谷落城の砌鬼畜と同じく戦場を去る
世上を思ひ乱るゞ妻子を具し遠国小赴
事も有ゝ故の所小帰り来る淀城の奥小引籠り
むかし日を送り名えより誠忠の義士あれ他家へ
仕へる而為れ有ゝ又ゞ有る田畑を耕やし茅を拵り
世を安く暮し名る日淀の多勇の軍の号を聞や病の
家より郡名るゞ次第ゝ帰り来ゝ故名を

あると記左近妻の小拾一子を病家小抱き中ゆう
我かりそえの為小ふし名るゞ年来のつきみや猟業
の事も有ゝ次第小却て迷も如ぐ古
ひはよゞまゞし中小ふこまのその着為手を
おのゞ名の為有ゝ
名よゝ寺有ゝ武門の家小生まれ清井家の臣と
よゞまゞ一生武名あゝハセしゞ家を捨ゝて主家の滅亡
二君小仕へる而為ゝ名者小せまのまで流人して我
一生色セゞ粋雪丸武士の血孫小生セーを土民
ゝ暮さるも浅ゝ有まゞ何とぞ十ヶ小も余ゝ

左をうま
小右か
さゞのかんの家

よ紀伊範をこの〻引るの座を辭謙させ重義を召出仕官
さる村井の家名を起させよいひおくるこゝまでなりといふ
夢さめて考へげかたのこゝまくるに召人今まで妻八郎もよも
あるまじきと伝よくくて吐ハ〻ごとこの日ハ朝食ねまの
御作ごかりそのいとぎきよ何ものあるべきぞ今の醫師
かゝるまでかゝるまぶ家の名医をまねきよ紀伊業も求へし
更のこゝかゝまぶ清ゝるの秋ぞ北堂の天蔭
神ゝもいのりあまぶ日をかゝくて快かゝん事をゆるやうに
拾更ともかゝを待ていさもまぶ雪ハおかゝるそてさる
那ぶで作さるかゝ業のゝぐくよう勇ゝちゝ小事ゝう寺射る

事をまうおかゝく作ゝまゝとおさゝ家ゝの健ゝまゝさゝぶふ
武士の子ゝりゝう者ゝき中ゝも父ハ歩笑を病を考ゝ
成人の後ハ武士ゝ家ゝ生涯の家名をこゝおゝセといふ
世のゝ理ゝ知ゝ考ゝよよハ果行ゝ長の稚ゝ
妻ハゝとゝおゝちゝて口ゝ業を考ゝ過ゝ行ゝ矢抱
ゝ生ゝ考ゝ知ゝゝ考ゝハ法ゝ考ゝ歌ゝ考ゝ
死をゝりゝ考ゝ法ゝ考ゝ大病ゝ考ゝ祈ゝ
学ゝ修ゝ考ゝ生ゝ考ゝ今ゝ別ゝ考ゝふゝ考ゝ
子ゝ成ゝ人ゝ考ゝ弓ゝ考ゝ年ゝ考ゝ考ゝ
ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ

う給ぞと申けき者ども是そうしゞかくそん果ゞと
ゝまんとゝ重し隣家のくゝ人をあらう〻あらしゞたゝの
ゝ聖道場繩と申ゝたゝ多々年かくて七日〳〵ふき
行ゝどゝ不昇けれたゝ中陰もゝ過ねまゞ小僧を召ゝ
かゞぐゝく山ふゝくゝ薪を持り都の町〳〵ひきゝ〳〵
まゞけき燒魚ゝ多ゝ雪丸ひとゝをたゝりそいゝゝ
そゞたゝどゝ〻ゝ仏の用ゝそけ多年ゝ

報恩竹の伏見巻之一終